

講師：東京大学名誉教授 板垣 雄三 先生

「一神教」認識と他者イメージ——

「エジプト人モーセ」問題とイスラーム、そして私たち

日時：2017年5月27日(土) 14:00~16:30

(開場 13:30)

会場：東京国際大学 高田馬場サテライト 4階

☆参加費無料 ☆事前申込不要(先着順) 定員70名

講演趣旨：「一神教 vs. 多神教の臆断を再考するために」

一般に一神教の歴史は、紀元前14世紀エジプトのアクエンアテンを自称したファラオ=アメンホテプ4世の宗教革命に発するとされている。ところが、一神教を代表すると自負するユダヤ・キリスト教文明の側からエジプトは一神教への対立者=偶像崇拜の巢と目される。一方、「ヘブライ人モーセ」ならぬ「エジプト人モーセ」像が一神教を止揚するものとして見なおされる動きも続いてきた。その20世紀現象としてジークムント・フロイトの最晩年の議論(『モーセと一神教』、例えば渡辺哲夫訳ちくま学芸文庫や岩波フロイト全集22)を踏まえて、「エジプト人モーセ」問題は近年、広く関心を集めている。その中でも注目されてきたドイツのエジプト学者・宗教学者Jan AssmannによるMoses der Ägypter: Entzifferung einer Gedächtnisspur, 1998の邦訳、ヤン・アスマン [安川晴基訳] 『エジプト人モーセ：ある記憶痕跡の解説』、藤原書店)が本年1月刊行された。これまでとかく看過されてきたイスラームへの視角から「エジプト人モーセ」を考えつつ、アスマンの仕事をどのように評価できるかを、ことに一神教vs.多神教の理解において誤った臆断をかかえる日本社会の中で、問題としてみたい。

講師紹介：東京大学名誉教授 ^{いたがき ゆうぞう} 板垣 雄三 先生

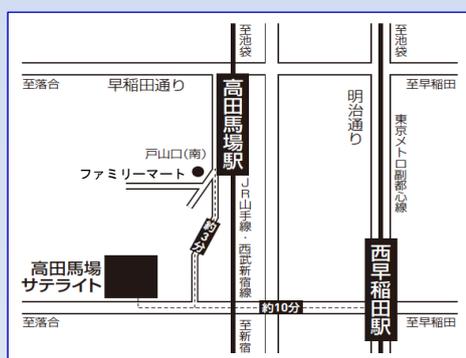
[学歴・研究歴]

1931年生。東京大学文学部西洋史学科卒業。東京大学東洋文化研究所助手、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授、東京大学教養学部教授、東京大学東洋文化研究所教授。東京大学定年後、東京経済大学コミュニケーション学部長。その間「イスラーム化と近代化」・「日本・アラブ関係」・「中東の社会変化とイスラーム」・「イスラームの都市性」など国際共同研究を組織し、アインシャムス大(カイロ)や民族学博物館(大阪)でも研究・教育を行う。以上のほか半世紀間、非常勤で約30大学にて歴史・政治・宗教・思想・地域学等の科目を教えた。

[職歴と現職]

日本学術会議会員・第1部長(人文科学)、国際歴史学委員会日本委員会委員長、日本中東学会会長、日本イスラーム協会理事長、アジア中東学会連合会長、日本・イスラーム世界文明対話世話人・日韓歴史家会議組織委員長などを歴任。

2003年、文化功労者。1964年アジア経済研究所発展途上国研究奨励賞、1989年大同生命地域研究奨励賞、1991年JCJ特別賞など受賞多数。現在、東京大学・東京経済大学の各名誉教授。



〈アクセス〉

地下鉄東西線「高田馬場」駅下車、徒歩4分

JR山手線「高田馬場」駅下車、戸山口より徒歩約3分

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-23-23

東京国際大学高田馬場サテライト 4階 ☆お車でのご来場はご遠慮ください。

〈主催〉東京国際大学国際交流研究所

〈共催〉早稲田大学イスラーム科学研究所 アジア・イスラーム研究会

〈問合せ先〉東京国際大学学事課・(担当：加藤) gakuji@tiu.ac.jp